

● 浜 の 話 題

- 5月18日、平塚市漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受けて、平塚漁港西側沖から湘南ベルマーレひらつかビーチパーク沖にかけて殻長 5cm 程度のチョウセンハマグリ約 6 千個を放流しました。順調に成長して地先の資源として寄与することが期待されます。



チョウセンハマグリ稚貝放流の様子



放流された稚貝

- 5月18日、みうら漁協金田湾地区の定置網でアンカータグ（標識）のついたスズキ（体重約 1kg）が獲れました。ジャパンゲームフィッシュ協会に問い合わせたところ、このスズキは今年の1月20日に横浜市の根岸湾で放流されたものであることが分かりました。アンカータグなどの標識がついた魚が漁獲された時は、県水産技術センターか担当地区の普及指導員にご連絡ください。
- 5月20日、小田原漁港で「あじ・地魚まつり 2018」が開催されました。当日は天候も良く、昨年より4千人多い2万8千人もの方々が来場しました。小田原市漁協では、漁協職員と漁師の手作りの「ムギイカの煮付け」、「イサキのさつまあげ」、「サバの竜田揚げ」、「サザエの壺焼き」を販売し、どれも昼前には完売しました。朝獲れ鮮魚の直売にも沢山の人が行列を作り、アジ、イナダ、カマスなどを買い求めていました。また大磯の松道丸が朝どれのしらすの販売を行い、湘南しらすのおいしさをアピールしていました。



朝どれのしらすを販売する松道丸

- 5月23日、鎌倉漁協所属の新丸さんは、テレビ番組の鎌倉特集の企画で取材を受けました。

当日はタコかご漁と刺網のサザエ漁のほか、鎌倉の地だこや地魚を使った晩御飯まで密着取材がありました。当日の様子は、6月21日木曜日21時からテレビ東京「和風総本家」で放映予定です。

- 5月23日、腰越漁協の「朝どれフライ」直売所は食べ歩き番組の取材を受け、タレントが定置網朝どれのアジやサバの揚立てのフライを味わいました。とてもおいしいと好評で、その様子はTOKYO MX「5時に夢中！」で放映されました。
- 5月29日、（公財）相模湾水産振興事業団は、小田原早川沖と酒匂沖に全長2-3cmのマコガレイ稚魚を4千尾放流しました。県栽培漁業協会により準備された種苗が、地元漁業者の手により放流されました。今後大きく成長して、漁獲に貢献することが期待されます。



放流されたマコガレイ稚魚



稚魚放流の様子

- 5月29日、（公財）相模湾水産振興事業団は、腰越と鎌倉地先に平均殻長3.6cm、平均体重12.8gのチョウセンハマグリ（チョウセンハマグリ）の稚貝を3千個づつ、合計6千個放流しました。両地先の漁業者は、新たな漁業対象種としてチョウセンハマグリの増殖に期待を寄せています。

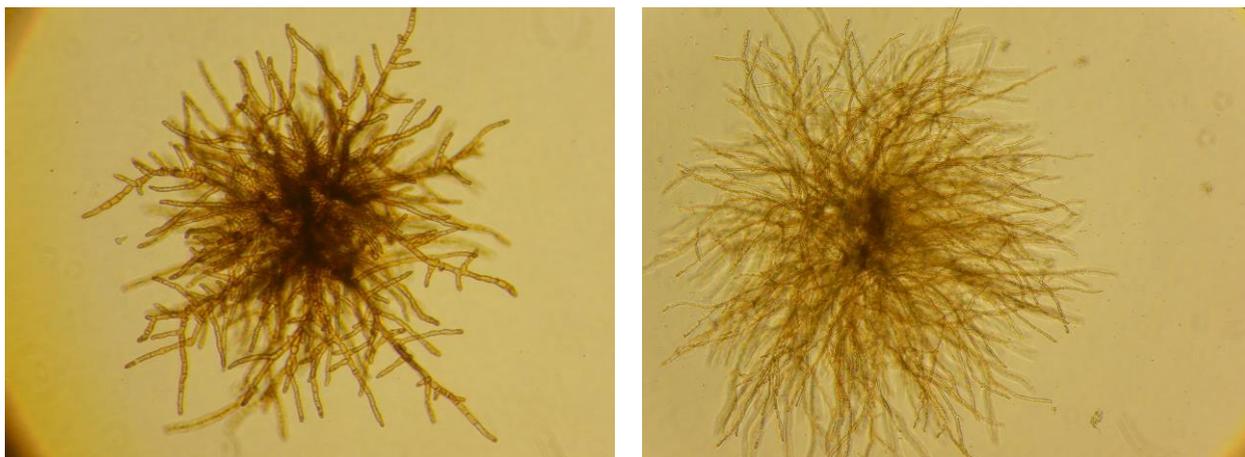


チョウセンハマグリ稚貝放流の様子（左：鎌倉地先、右：腰越地先）



- 5月31日、（公財）相模湾水産振興事業団は、腰越地先に平均全長4cmのマコガレイ稚魚を4千尾放流しました。マコガレイは市場単価も良く、ヒラメと同様に刺網の漁獲対象となるので、漁業者は今後の放流効果に期待を寄せています。
- 県水産技術センター企画資源部では、ワカメのフリー配偶体試験を実施しています。この試験では、受精前に雌雄別に分離したワカメのフリー配偶体（ワカメの芽のようなもの）を培養し、異なる系統を掛け合わせることで、高水温に強いなど新しい性質のワカメを作出することを目

指しています。また、フリー配偶体を用いると1ヶ月程度で種糸が生産できることから、作業時間の短縮や種糸バックアップ体制の確立にも役立つことが期待されます。



ワカメのフリー配偶体（左が雌、右が雄）

●お知らせ

- 6月19日火曜日9時から、茅ヶ崎市漁協は「さかなの市」を茅ヶ崎漁港荷捌き所で開催します。漁協が、茅ヶ崎沖をはじめ相模湾で漁獲された鮮魚を販売するほか、地場野菜、キッチンカーによるしらす丼等の販売もありますので、ぜひご来場ください。